

「とこしえの道」

(詩篇139:23~24)

神よ わたしをさぐり
こころを知ってください

わたしの中に 傷つけるところがある
かないかを見て みちびきたまえ

とこしえの義の道に

「このままの姿で」

1. 小さな野の花でも 主の愛を受けて輝く
あふれる主の恵みは いついつまでも
バラは バラのように スミレは スミレのように
私も このままの姿で ついてゆきます
2. 空を飛ぶ鳥たちは 主の愛を歌いつづける
あふれる感謝、喜びは いついつまでも
鷺は 鷺のように スズメは スズメのように
私も 主の誉め歌を 歌いつづける

新聖歌28番 「御神(みかみ)の恵みを」

- 1 御神(みかみ)の恵みを 思いみれば
うれしさあまりて 歌とぞなる
- 2 まよえる時には 道をしめし
おごれる時には 鞭(むち)を賜(たま)う
- 3 この身にあまれる みいつくしみ
おさなき時より いや積(つ)もりぬ
- 4 積もりに積もれる み恵みをば
この世に彼(か)の世に 歌いつづけん

アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。
われは聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌49番 「しみも咎(とが)も」(聖餐式)

- 1 しみも咎(とが)も 汚れもなき
小羊わが主は ほふられしや
- 2 こは わがため 十字(じゅじ)の上に
釘(くぎ)もて裂かれし みからだなり
- 3 こは わがため のろい受けて
流させたまひし 君(きみ)が血なり
- 4 こは わがため 与えたもう
いのちの糧(かて)なり 飲みものなり
- 5 なつかしくも 見失(う)せし主は
まもなく再び 来たりたまわん
- 6 その時まで 十字架を負(お)わん
救いの恵みを 喜びつつ アーメン

新聖歌258番 「墨(すみ)よりも黒き心なれど」

1 墨(すみ)よりも黒き 心なれど

雪よりも白くあらわれたり

* 君(きみ)のもとに行きし時に おもにはすべて去れり
今はただイエスを信じ 喜びかぎりなし

2 うたがいおそれは 消えてあらず

やみ夜(よ)はかわりて 昼となりぬ * (くりかえし)

3 日々 おのれをすて 十字架をとり

ただ主にしたが い 道を歩まん * (くりかえし)

4 今 主を見ずとも 信ずるわれの

楽しみ さかえは かぎりあらじ * (くりかえし)

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあげさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御霊(みたま)を

アーメン